

報告

第2回 入門！スフィア・スタンダード —国際基準で考える必須の視点・態度・行動—

岡本 菜穂子

開催日：2023年1月22日

登壇者：千島佳也子（DMAT/厚生労働災害医療派遣チーム、看護師）

福田紀子（参加型学習ファシリテーター、スフィア・トレーナー）

スフィア基準は、人道支援の関係者の中では、国際的な共通理解の基盤として普及している。スフィア基準は「災害の影響を受けた人々とコミュニティ」を中心に置き、誰もが尊厳ある存在として生きていける場を作るための倫理、考え方、行動基準が示されている。

自然災害や戦争による避難を強いられている人たちがコロナ禍という感染症の二重の災害が重なった場合、どのような問題が生じ、支援する者は何を大切に行動することが必要なのかを考える機会として第1回に続き2回目のセミナーを、学生、一般向けに実施した。

登壇者のひとり、現在厚生労働省 DMAT 事務局で活動中の千島佳也子は、国内外で緊急援助隊員として支援活動を行ってきた人物である。もうひとり、参加型学習のファシリテーターとして人権教育等を行ってきた福田紀子は、スフィア基準の生まれた90年代に人道支援に関わり活動してきた人物である。

当日は、まず、「人道支援とは」で「人道四原則」や「災害とは何か」について触れ、スフィア・ハンドブックに示される「二つの信念」「脆弱性の理解と対応力」などライツベース・アプローチ（人権に基づく考え方）のエッセンスの学習を通して、スフィア基準の基本は技術ではなく「考え方」であることを学んだ。

次にコロナ禍における震災避難所の事例を用いて、支援者側と当事者側のどんな困難さがあるかをグループ内メンバーで意見交換をし、その後、講師の経験を交えたスフィア基準に基づく考え方の解説を行った。さらに「支援の問題点」を手がかりに、スフィアの「必須基準

（Core Humanitarian Standard/CHS）」である九つの柱の読み解きを震災者の事例からグループで意見交換を行い、講師の経験を交えた解説を行なった。必須基準は、どんな支援活動であっても、適切、公正であろうとすれば、必ず必要とされるもので、支援の現場だけでなく、組織としての支援団体の責任を明示し、ドナー（寄付者）やボランティア他あらゆる関係者も知るべき指針である。「スフィアの背景」として人類が「尊厳を持つ人間」の姿をどう獲得してきたのかの歴史の概観と、「スフィア基準」の直接の引き金となったルワンダ虐殺時の様子を知る等、「質と説明責任」が求められる前提について学んだ。

オンライン上の限られた時間であり、少人数の参加ではあったが、参加者同士が活発に意見交換を行い、事例によるリアリティのあるグループワークが行えたセミナーであった。

岡本 菜穂子（おかもと なほこ）

（グローバル・コンサーン研究所・上智大学総合人間科学部）